



🌱 目次

- 生産現場情報**： 「花き」で周年農業へ 挑戦中! 後継者を育て新たな取り組み P 1～4
～羽後町三輪 藤原俊晴さん・空史さん～
- 営農支援情報**： 令和6年産米の稲づくりがスタートします P 5～10
- ご 紹 介**： JA 農業機械パワーアップ運動成果発表大会を開催！ P 11
令和5年度 営農・担い手担当者スキルアップフォーラムを開催 P 12～13
スマート農業アクセラレーションサミット開催～労働時間削減な P 14
- お知らせ**： 令和6年度あきたフレッシュ大使募集 P 15

「花き」で周年農業へ挑戦中! 後継者を育て新たな取り組み ～羽後町三輪 藤原俊晴さん・空史さん～

1. 取組みの背景

J Aこまち管内の羽後町三輪赤袴地区の藤原俊晴さん（69才）は「みわ営農A K I T A」の代表理事副組合長を務めています。「みわ営農A K I T A」は平成10年に前身となる大豆生産組合からヘリ防除をきっかけに法人を設立しました。そうした中で藤原俊晴さんは、このまま水稲や大豆だけでは経営が立ち行かなくなると判断し、独自に法人とは別に花き栽培の規模拡大を図りました。

以前から花き栽培はしていたもののハウス利用の大規模な栽培は初めてで、三輪地区の花き生産者から指導を仰ぎながらのスタートとなりました。

J Aの花き部会に所属し当時主力品種であった「ストック」の栽培を奥さんの佳子さんとともに手掛け、現在では「トルコギキョウ」と合わせた周年栽培に取り組んでいます。

また、水稲栽培では主力品種の「あきたこまち」は直播栽培（カルパーコーティング）に取り組み、省力化を図り安定した生産量と食味を維持しており、J Aこまちにおいて実施している食味コンテストで4年連続最優秀賞を受賞しました。

さらに秋田県の新品種「サキホコレ」の移植栽培にも令和3年から取り組んでいます。現在、水稲部門は「みわ営農A K I T A」法人経営管轄とし、花きは個人で生産・販売しています。

○設 備

- ・パイプハウス18棟（3間×25間）
- ・花き出荷調整場1棟
- ・作業所1棟



藤原俊晴・佳子さんご夫婦



ハウス内のトルコギキョウ

2. 空史さんが花卉生産に取り組んだ経緯

長男藤原空史（たかふみ）さん（35才）は平成29年に就農しました。空史さんは、大学卒業後6年間県外での会社勤めを経験し、一念発起し花き生産に取り組んだとのこと。

父俊晴さんからの誘いもあり、以前から興味があったことでもあります。職場に迷惑が掛からないようにという気持ちから、早めに退職を決めたとのこと。父親の、体が動くうちにノウハウを伝えたいという強い気持ちに動かされたとのことでした。

就農の一番の決め手は、実家が花き農家であったことと、親の経営基盤がしっかりできていて収入も安定しているように見え、親が成功している姿を見ていたことから、「これをやらない手はないな」と就農することに決めたとのこと。

就農当初は、「守破離」を徹底することから始めました。1年目は冒険せず、安定した利益が見込めて栽培しやすい品種を選んでいきました。2年目以降も基本は安定して収益性のある品種を選び栽培し、堅調に売り上げを伸ばすことができたとのことですが、3年目にしてメガ団地事業に参画し、新規にハウスを導入、経営拡大を図った際、土づくりに失敗し、新規ハウス3棟から1本も出荷できないという苦い経験をしました。

その後、JAこまち花き部会に入ることで、県外への研修や先輩農家、地域振興局普及指導員、JAの指導員の方への相談を繰り返しながら、現在は安定した経営をしています。

父俊晴さんは良き指導者でもあり、現在ではハウス18棟を分割し経営は独立採算制となっています。



セレブリッチホワイト



エレスライトピンク



コレゾブルー

※トルコギキョウは現在、世界中で300以上の園芸品種が流通しており、そのほとんどが日本産です。

○年間スケジュール

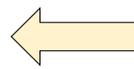
(単位：a、千本)

| 作型 | 面積 | 出荷量 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------|----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| トルコギキョウ | 75 | 70 | | | | 出荷 | | | | | | | | |
| ストック | 15 | 30 | | | | | | | | 出荷 | | | | |
| 合計 | 90 | 100 | | | | | | | | | | | | |

○販売先 JAこまち経由

花⇒全国9市場（世田谷・南関東・群馬中央・秋田・仙台・川越・青梅・姫路・札幌）

○労働力 常時4人稼働 ピーク時は8人体制で稼働



令和5年度第146回秋田県種苗交換会にて
一等賞を受賞したボンポヤージュホワイト
(切り花 トルコギキョウ)

3. 新たな取り組みへ

空史さんは令和5年5月に史子さんと結婚し、二人で花き栽培をスタートしました。史子さんは由利本荘市出身で実家は農家ではなかったにもかかわらず、会社勤めを辞めて花き農家になると決めました。

花が好きだったということと、二人で仕事ができることから決めたそうです。史子さんは、「誰しも一度は花に関わる仕事につきたいと思ったことがあると思います。そして花農家には魅力がたくさんあります。きれいな花に囲まれて仕事ができることや人々を祝い、笑顔にできること、自分の好きな花の魅力伝えることができることなどです」と笑顔で話してくれました。

空史さんも力強い伴侶を迎え一層がんばることができると話していました。その結果ともいえるべきでしょうか令和5年第146回秋田県種苗交換会において、1等賞を受賞しました。



トルコギキョウの出荷調整作業



藤原空史・史子さんご夫婦

花農家は、きれいな花に
囲まれて仕事ができる。
人々を祝い、笑顔にできる。

4. 今後に向けて

空史さんは、今後は水稻を父俊晴さんから学びつつ、花きメインでやっていきたいとのこと。自分のこだわりは、需要と供給のバランスをとにかく守ることと高品質のものを作ることは当然として、市場が「求めている時期」に「求めているもの」を「求めている量」で出荷していきたいとのこと。

花きはその年によってトレンドも変わるので、常にアンテナを張り、新品種にもチャレンジしなければならないとのこと。トレンドの品種と既存の人気品種のバランスを考えながら、それらを両立させて、出荷量を多くしていくというのが藤原家の強みだと話されていました。

繁忙期には作業が集中し、休む間もないくらいだと話されていました。農家の価値は品質の良さと、出荷する量で決まるとの考えから、今後も安定した量を出荷できるよう努力していきたいと話されていました。

これからも家族みんなで力を合わせ、経験を一年ずつ積み重ねながら、引き継いだ栽培技術の精度を高め、一人でも多くの人の心に留まる花を出荷していきたいとのこと。



ハウス内のトルコギキョウに囲まれて

令和6年産米の稲づくりがスタートします

1. 今年の春先の気象予報

気象庁が2/20に発表した3ヶ月予報では、気温は高い確率が40%となっており、降水量は平年並みの確率が40%となっています。

令和5年産米では、春先の好天により播種作業や耕起等の圃場作業が、全県的に早く始まる傾向にありました(表1)。今年も雪解けが早まり、好天が続いた場合、春作業が早まる可能性があります。スタート作業である“種子予措”では、「温度」が重要になりますので、基本技術をもう一度確認し、健苗育苗を行いましょう！

表1 令和5年産米の春作業の進捗(各地域振興局調べ)

| | | 始期 | | | 盛期 | | | 終期 | | |
|-------|----|------|------|----|------|------|----|------|------|----|
| | | 2023 | 平年 | 差 | 2023 | 平年 | 差 | 2023 | 平年 | 差 |
| 播種作業 | 県北 | 4/11 | 4/13 | -2 | 4/18 | 4/18 | 0 | 4/26 | 4/26 | 0 |
| | 中央 | 4/9 | 4/11 | -2 | 4/17 | 4/18 | -1 | 4/28 | 4/28 | 0 |
| | 県南 | 4/17 | 4/20 | -3 | 4/23 | 4/25 | -2 | 4/30 | 4/30 | 0 |
| | 全県 | 4/11 | 4/11 | 0 | 4/21 | 4/22 | -1 | 4/30 | 4/30 | 0 |
| 耕起作業 | 県北 | 4/21 | 4/22 | -1 | 5/1 | 5/2 | -1 | 5/9 | 5/10 | -1 |
| | 中央 | 4/13 | 4/17 | -4 | 4/25 | 4/28 | -3 | 5/6 | 5/8 | -2 |
| | 県南 | 4/25 | 4/30 | -5 | 5/3 | 5/6 | -3 | 5/13 | 5/14 | -1 |
| | 全県 | 4/16 | 4/20 | -4 | 4/30 | 5/3 | -3 | 5/11 | 5/12 | -1 |
| 田植え作業 | 県北 | 5/12 | 5/14 | -2 | 5/20 | 5/22 | -2 | 5/29 | 5/29 | 0 |
| | 中央 | 5/9 | 5/10 | -1 | 5/18 | 5/19 | -1 | 5/29 | 5/29 | 0 |
| | 県南 | 5/16 | 5/17 | -1 | 5/23 | 5/24 | -1 | 5/30 | 5/31 | -1 |
| | 全県 | 5/11 | 5/12 | -1 | 5/21 | 5/23 | -2 | 5/30 | 5/30 | 0 |

2. 各作業のポイント

(1) 塩水選

塩水選により、軽い種子(罹病籾や充実不足)を取り除くことで、発芽が揃います。

塩水選を行う際は、正しい比重液で行うことが重要です。

比重液は食塩または硫酸で、品種に合わせて作りましょう。

【比重液の濃度】

うるち米：1.13

もち米：1.08

多量に塩水選を行う場合は、時々比重を確認し、正確な比重に調整しましょう。

※種子消毒剤吹付・塗抹済種子は、消毒剤が溶出して
しまうため、塩水選は行わない!

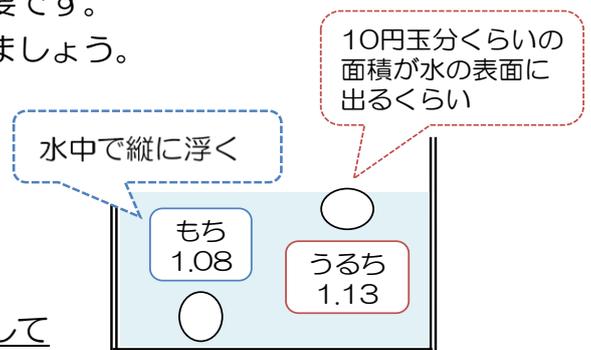


図1 (参考) 卵を用いた比重液の目安

(2) 種子消毒

種子消毒は種子伝染性病害（いもち病・ばか苗病・もみ枯細菌病等）を防除するために行います。無消毒種子を購入した場合は、必ず種子消毒を行いましょ。また、自家採種による種子は使用せず、採種ほ産種子を使用しましょ。

いもち病やばか苗病は稲わらやもみ殻等が伝染源になり得るため、種子予措を行う施設や育苗施設を清掃し、施設の近くに置かないようにしましょ。

【薬剤による防除】

- ・ヘルシード乳剤
 - ・テクリードCフロアブル 等
- ※薬剤ごとに希釈倍数・使用方法が異なるため、ラベルを確認しましょ。
- ※浸種水温 10～15℃で効果が安定するため、薬液の温度は 10℃以下にならないようにしましょ。

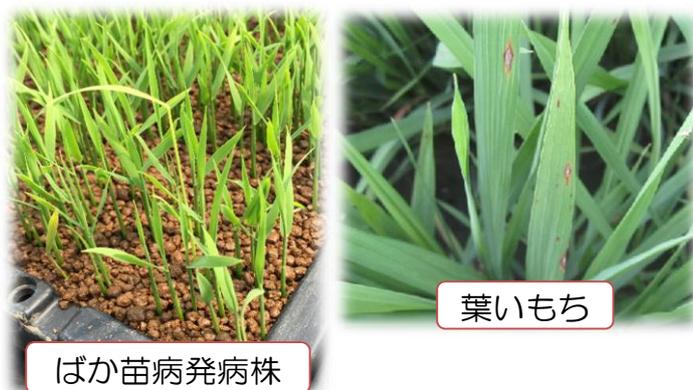


図1 種子伝染性病害例

【温湯消毒】

60℃のお湯に 10 分間浸漬する消毒方法。タフブロック等の生物農薬と組み合わせると防除効果が高まります。

※効果安定のため、浸漬温度・時間を厳守しましょ。

※種子袋内部の温度ムラをなくすため、浸漬直後に袋を数回振とうしましょ。

※もち品種では温湯浸漬を行わないで下さい。

※温湯浸漬した種子は、芽の動きが早まることがあるので、浸種時によく観察しましょ。

(3) 浸種

浸種は発芽を揃えるため、発芽に必要な水分を吸収させるとともに、種子に含まれる発芽阻害物質を溶出させて取り除く作業です。昨年、登熟期間が高温で推移したことから、令和5年産の種子は休眠が深くなっていることが考えられます。秋田県産米改良協会が行った発芽試験では、最終的な発芽率は平年並みなものの、発芽勢がやや劣っています（表2）。

表 1 発芽試験結果（秋田県産米改良協会実施）

（単位：％）

| 種子の年産 | 播種からの経過日数 | | | |
|------------|-------------|------|------|-------------|
| | 5日 | 7日 | 9日 | 14日 |
| 令和5年産 | 85.4 | 92.5 | 95.2 | 96.9 |
| 令和4年産 | 76.2 | 96.2 | 97.3 | 97.5 |
| 令和元～3年産の平均 | 92.4 | 97.1 | 98.2 | 98.4 |

播種5日後の発芽率が平年より低い

このことから、発芽が揃いにくいことが想定されますので、下記ポイントに注意しながら浸種作業を行うようにしましょ。

♀ 浸種時のポイント ♀

① 浸種温度：10～15℃を確保（4月上旬頃を目安に始める）

※10℃以下の低温で浸種すると、逆に休眠が深まる可能性があるので注意！

② 浸種時の水量は種子容量の2倍程度
⇒種子1kgだったら、水量は約3.5L

③ 浸種期間：水温10℃⇒6～8日程度
水温14℃⇒6日程度

④ 水の交換回数：2～3回

※浸種開始後2日間は種子袋をゆすったり、水のかけ流し、循環や交換をしないようにしましょう。これは塗抹・湿粉衣法による消毒済種子や吹付済種子の薬剤の効果を高めるためにも重要です。

⑤ 浸種終了の目安：もみ殻を透かして胚が白く見えるようになった時



吸水すると容積が増える
⇒種子袋に入れる量は
50～60%にとどめる

図1（参考）浸種の様子

（4）催芽

発芽の種子間差を小さくし、均一に発芽させるために行います。催芽を始める前に、あらかじめ36～40℃の温度で湯通しを行い、内部の種子まで均一な温度にしましょう。お湯から取り出した際に、袋から流れ落ちる水が温かければ、内部も温かいサインです。

催芽温度は30～32℃とし、催芽中は水分を切らさないようにしましょう。

芽の長さは「ハト胸程度」とします。

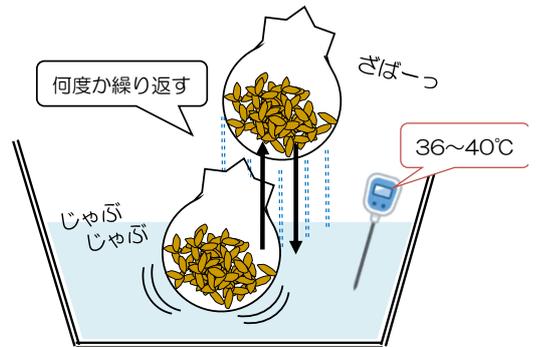


図2 催芽前の湯通し



図3 正しいハト胸の状態

(5) 播種前の準備

苗立枯病防除のための薬剤を床土混和処理する場合は、なるべく処理した日から播種日まで期間が空かないようにしましょう。また、菌の種類により、効果のある薬剤が異なるため、薬剤選択をする際は、対象菌種にも注意しましょう。

表 1 (参考) 苗立枯病の菌種ごとの特徴

| 病原菌 | 地際部のカビの有無 | | 症状 | 多発条件 |
|---------|-----------|-----------------|--|---|
| ピシウム菌 | なし | — | <ul style="list-style-type: none"> 地際部が水浸状に褐変、急激にしおれて枯死（坪枯症状） 2～3葉期になって、急に水分不足のように萎凋、黄褐色～灰褐色となり枯死（△レ苗） | <ul style="list-style-type: none"> 低温、多湿 高pH（pH5.7～6.6） |
| フザリウム菌 | あり | 白色または紅色で、粉状 | 地際部が褐変腐敗、地上部は萎凋、後に黄化し枯死 | <ul style="list-style-type: none"> 低温や土壤の乾湿の繰り返しによる苗の衰弱 |
| リゾープス菌 | あり | 白い菌糸→灰白色 | 出芽不良、生育不良、根の発育不良 | <ul style="list-style-type: none"> 高温（出芽中32℃以上） 多湿 厚播き |
| トリコデルマ菌 | あり | 白色→青緑色 | <ul style="list-style-type: none"> 葉が黄変、のちに褐変、枯死 地際部の褐変が著しい | <ul style="list-style-type: none"> 低pH |
| リゾクトニア菌 | あり | 白色～淡黄色不整形の菌核を形成 | <ul style="list-style-type: none"> 下葉・葉鞘が灰緑色になり、萎凋、黄化（箱の中央部） 白色～淡褐色の不整形な菌核を形成 | <ul style="list-style-type: none"> 高温、多湿（特に育苗後期） 厚播き |

苗立枯病は、薬剤による防除の他、人工培土を使用したり、温度管理等の育苗管理を徹底することで防ぐことができます。

(6) 出芽

出芽温度や時間等は、苗の種類により異なります。乳苗・稚苗は加温出芽ですが、中苗は原則無加温での出芽となります（表4）。

出芽時は下記に注意して、“もみ枯細菌病”の発生を助長しないようにしましょう。

表 2 苗の種類ごとの出芽方法

| | 乳苗 | 稚苗 | 中苗 |
|------|------|--------|-------|
| 出芽温度 | 32℃ | 30～32℃ | 無加温※ |
| 出芽期間 | 48時間 | 48時間 | — |
| 出芽長 | 2 cm | 1 cm | 0.5cm |

※加温出芽する場合は、やや低めの温度管理を行う。

- ① 出芽温度は 32℃を超えないようにする。
- ② 無加温出芽の場合、被覆期間を過剰に長くせず、出芽後の再被覆は行わない。
- ③ 緑化期以降は 25℃以上にならないようにする。

※もみ枯細菌病の防除は、「種子消毒」を行うことが基本です。

(3) 本田の準備

近年、田植え後に高温となり、土壌の異常還元が発生しやすくなっています。田んぼの有機物は、堆肥等の投入がない場合、ほとんどが稲わらに由来します。土中にすき込まれた稲わら（有機物）は、微生物によって取り込まれ、植物が吸収しやすい無機物に変わります。この時、土壌中の酸素も一緒に取り込んでいます。気温が高く、微生物の活動が活発になると、土壌中の酸素濃度も低くなり、酸欠状態＝異常還元を引き起こします（図6）。

異常還元が発生すると、土壌中の硫黄（硫化物イオン）が根に有害な硫化水素（ H_2S ）となり、根痛みが発生します。

<微生物による有機物の分解の仕組み>

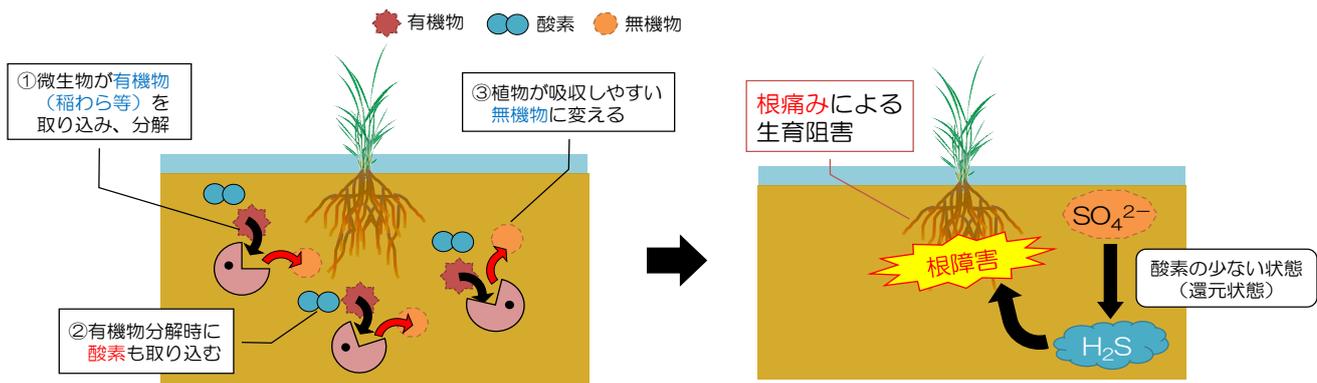


図 1 土壌中における有機物の分解と硫化水素の発生原理

根痛みが発生すると、初期の分けつや生育が抑制され、その後の生育にも影響します。異常還元の発生を防ぐため、春の耕起前に排水対策を行い、稲わらの腐熟を促進させてから耕起を行うのがオススメです（図7）。



図 2 稲わらの腐熟を促進させる作業体系

令和5年産水稻種子のご利用にあたっての注意点

令和5年産の種子の発芽率は、例年並みの90%以上であることを確認していますが（下表）、昨年は過去に例をみない高温で登熟したことから、休眠が深くなっていると思われます。

秋田県産米改良協会で行った発芽試験では、発芽勢がやや低くなっており、発芽がそろいにくいことが予想されますので、利用にあたっては次の点に注意しながら行ってください。（下表参照）

また、高温登熟の影響もあり、ふ割れした粳や枝梗が残っているものもあるほか、規格が「準種子」になったものもありますのでご注意ください。

< 水稻種子の発芽試験（あきたこまち）のデータ >

（秋田県産米改良協会による試験）

| 年 産 | 播種からの経過日数 | | | |
|---------------|-----------|-------|-------|-------|
| | 5日 | 7日 | 9日 | 14日 |
| 令和5年産種子※ | 85.4% | 92.5% | 95.2% | 96.9% |
| 令和4年産種子 | 76.2 | 96.2 | 97.3 | 97.5 |
| 令和元～3年産種子(平均) | 92.4 | 97.1 | 98.2 | 98.4 |

※14日目の発芽率は例年並みですが、5日目の発芽率（発芽勢）がやや低い。

利用のポイント

- 【浸 種】** ・高温登熟しているのので、吸水しにくい場合があります。水温は10℃以上を確保し適正な日数で行ってください。
 - ・なお、塩水選を行う場合は、粳の状況をみながら塩分濃度を調整してください。
- 【催 芽】** ・温水（36～40℃）で処理してから、その後も適正温度（30～32℃）になるようにし、種子袋の内側と外側に温度ムラがでないようにしてください。
- 【播 種】** ・枝梗が残っている場合もありますので、播種ムラや詰まりがないかを確認しながら行ってください。
 - ・なお、塩水選を行う場合は、粳の状況をみながら塩分濃度を調整してください。



ＪＡ農業機械パワーアップ運動成果発表大会を開催！

秋田県ＪＡ農機技術指導員委員会（事務局：ＪＡ全農あきた）は1月27日、秋田市で「令和5年ＪＡ農業機械パワーアップ運動成果発表大会」を開催し、ＪＡ農機担当者・メーカー関係者などが一堂に会しました。この大会は、優れた成果を収めたＪＡの農機担当者の栄誉を称え、表彰することに加え、組合員との絆を深めるための出向く推進体制を強化することを目的に開催しています。



今回の製品成約受注部門の最優秀賞にはＪＡ秋田おばこの佐々木知之さん（写真左下）、修理整備料金部門の最優秀賞にはＪＡ秋田おばこの佐藤優さんが輝きました。



また、年間を通じて優秀な成績を収めたＪＡやＪＡ職員に向け、各メーカー表彰（写真左上）や全農秋田県本部表彰（写真右上）をしました。

ＪＡ全農あきたは今後もＪＡ農機担当者と連携し、積極的に農家への訪問活動を展開し、よりニーズにあった提案ができるよう取り組みを進めていきます。

令和5年度 営農・担い手担当者スキルアップフォーラムを開催

J A全農あきたは1月30日、秋田市で「令和5年度営農・担い手担当者スキルアップフォーラム」を開催しJ A営農・担い手担当部署の職員など43名が参加しました。

このフォーラムは、地域農業の担い手からの要望が多様化する状況において、J A職員が持ち合わせなければならない知識、情報も高度化していることから、担い手のニーズに関連した複数のテーマでディスカッションを行うなどし、担い手対応力の強化を目的に開催しました。



この日は、「TACパワーアップ大会」TAC部門において、2022～2023年と2年連続優秀賞を受賞したJ Aいわて中央の米田菜摘さんを招き優良事例を紹介いただく講演会を行いました。講演会の質疑応答を含め、担い手法人の事業承継に関してJ Aは何ができるか、集積する農地管理をどう効率よく行い、労働力を確保していくか、厳しい自然環境のなかでどう作物を守っていくかなど、J A職員が対応に苦慮していることをテーマにディスカッションがおこなわれ、積極的な議論が交わされました。

Tとことん、**A**会って、**C**コミュニケーション!!



J Aいわて中央：米田菜摘さんによる【次世代に地域農業を繋ぐための農業技術のスマートな継承～地域一体型法人が繋げる「農業・ひと・自然」～】と題した基調講演の様子



【ディスカッションの様子】

また、埼玉県JA埼玉みずほ管内の株式会社ヤマザキライス山崎能央代表取締役による、ザルビオフィールドマネージャーを活用した栽培、高温化でも高い一等米比率を維持するための取り組みなどについての基調講演を行いました。参加者から「ザルビオのさらなる可能性を感じた」「今回の講演を参考にし、JAでもザルビオの活用に取り組んでいきたい」「出向く活動のモチベーションアップに繋がった」などの声が聞かれました。



株式会社ヤマザキライス山崎能央代表取締役社長による

【水稻におけるザルビオフィールドマネージャーの活用と営農指導】と題した基調講演の様子

JA全農あきたは、JAと担い手が抱える課題解決につながる、優良事例の紹介やJA間の情報共有、農業ICTに関する情報にふれる機会として、今後もフォーラムを継続していきます。

スマート農業アクセラレーションサミット開催～労働時間削減など実証

J A全農は2月2日、東京・大手町のアグベンチャーラボで初めてとなるスマート農業アクセラレーションサミットを開きました。スマート農業技術を活用することによる労働時間の削減や、適正施肥による収量増などこれまでに実証された成果が報告され、現場での導入の意義などを発信するとともに、今後さらに推進する必要性が確認されました。

全農はこれまでにないスピードで進んでいる担い手への農地集積に対応するため、農地を効率的に管理する営農支援システムに着目し、Z-GISとザルビオフィールドマネージャーの開発、導入を進めてきました。

スマート農業
ICT活用でめざす新たな圃場管理

アクセラレーション
サミットのご案内

スマート農業の優良事例を
You Tubeで聞ける

サミットをきっかけに
スマート農業を
はじめてみませんか?

Z-GISやザルビオを活用して
作業の効率化や
収量アップを実現

本サミットは、Z-GIS・ザルビオフィールドマネージャーを中心としたスマート農業の優良事例を生産者・JAに発表いただくイベントです。今回発表いただく優良事例は特に費用対効果が見られた事例をご紹介します。是非本サミットをきっかけに、スマート農業に取り組んでいただき、作業時間の削減や収量アップを実現してみてください。



電子地図と圃場情報データを紐付け
マッピング機能に優れた
営農管理システム「Z-GIS」



1. 圃場情報をデータで記録・管理
2. 1kmメッシュ気象情報
3. グループ内でデータを共有



衛星画像と人工知能(AI)により、
最適な管理を提案
最先端の栽培管理システム「ザルビオ」



1. 衛星画像データで生育状況を毎日確認
2. AIが圃場データを分析し、生育ステージを予測
3. 病害リスクや雑草管理のタイミングを提案

事例紹介では、J A秋田なまはげの担い手支援室の松田室長がWebでの参加で「自動給水機による水管理の実証試験」について報告しました。

水管理について
7/10に間断灌水仕様にセンサーを設置。
音で写真は水が抜けていない。

田面より低い位置に下層センサーが設置されている。

水の勢いで茎や除草剤が流れるのを防ぐため、上向きにセンサーを設置した。

秋田の青果物 **愛菜果**

令和6年度

あきた フレッシュ大使 募集

応募期間
2024年
3月1日(金) >>>
4月21日(日) 必着

- 【応募資格】**
- ① 満18歳以上で心身ともに健康な方(高校生を除く) ※性別および、未婚・既婚は問いません
 - ② 秋田県内在住者、または秋田県出身者で東京近郊在住者(本籍、職業は問いません)
 - ③ 県内外でのキャンペーン、イベントに従事できる方
※ミス○○、キャンペーンガール、イベントコンパニオン等の任期が重複する方は応募できません。
 - ④ 2次審査、委嘱状交付式へ出席可能な方

【応募方法】 市販の履歴書用紙に必要事項と「身長」を記入の上、3ヵ月以内に撮影した鮮明なカラー写真2枚(全身、上半身各1枚、12cm×8cm程度のもの)を添付し、郵送してください。
JA全農あきたのホームページの専用フォームからも応募可能です。

<https://form.ja-group.or.jp/ja0243/apply>



【任 期】 令和6年6月1日～1年間

【募集人員】 3名程度

【応募先】 〒010-8558 秋田市八橋南二丁目10番16号 秋田県JAビル
JA全農あきた園芸課内
「あきたフレッシュ大使募集係」宛 TEL.018-864-2495

【審査方法】

- ① 1次審査:書類審査
- ② 2次審査:面接審査

日 時: 令和6年5月10日(金) 10:00～(予定)
場 所: 秋田県JAビル

※結果は書面で通知のほか、1次および2次審査の通過者には電話連絡を行います。

【交付式】 日 時: 令和6年5月31日(金) 11:00～

場 所: 秋田市内(予定)

【賞 品】

- ① 正 賞: 記念楯
- ② 副 賞: 15万円商品券・県内産くだもの(年2回)

【あきたフレッシュ大使の任務】

秋田県産青果物の販売促進を図るため、県内・首都圏・関西等での県産青果物の宣伝即売等に関する行事やキャンペーンに従事する。(日当として、8,000円支給します。)

(1) 1次審査の合格者においては、履歴書等に基づいてお勤め先等の確認を実施いたします。
(2) 応募者からご提示いただいた個人情報、選考や選考結果の連絡等「あきたフレッシュ大使」募集の運営業務遂行上、必要な限りにおいて利用し、個人情報保護法に基づき適切に管理します。

あきた園芸戦略対策協議会 TEL.018-864-2495

令和6年度ミス・フレッシュ秋田は、あきたフレッシュ大使として活動を開始します。秋田県産青果物のPR活動に参加してみませんか！

ご応募は
こちらから



入選者には
15万円商品券
プレゼント!

Za・あぐりふおーむ
Zennoh-akita agriculture+reform



JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
第49号 令和6年3月6日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒011-0901秋田市寺内字大小路207の24 018-880-1011